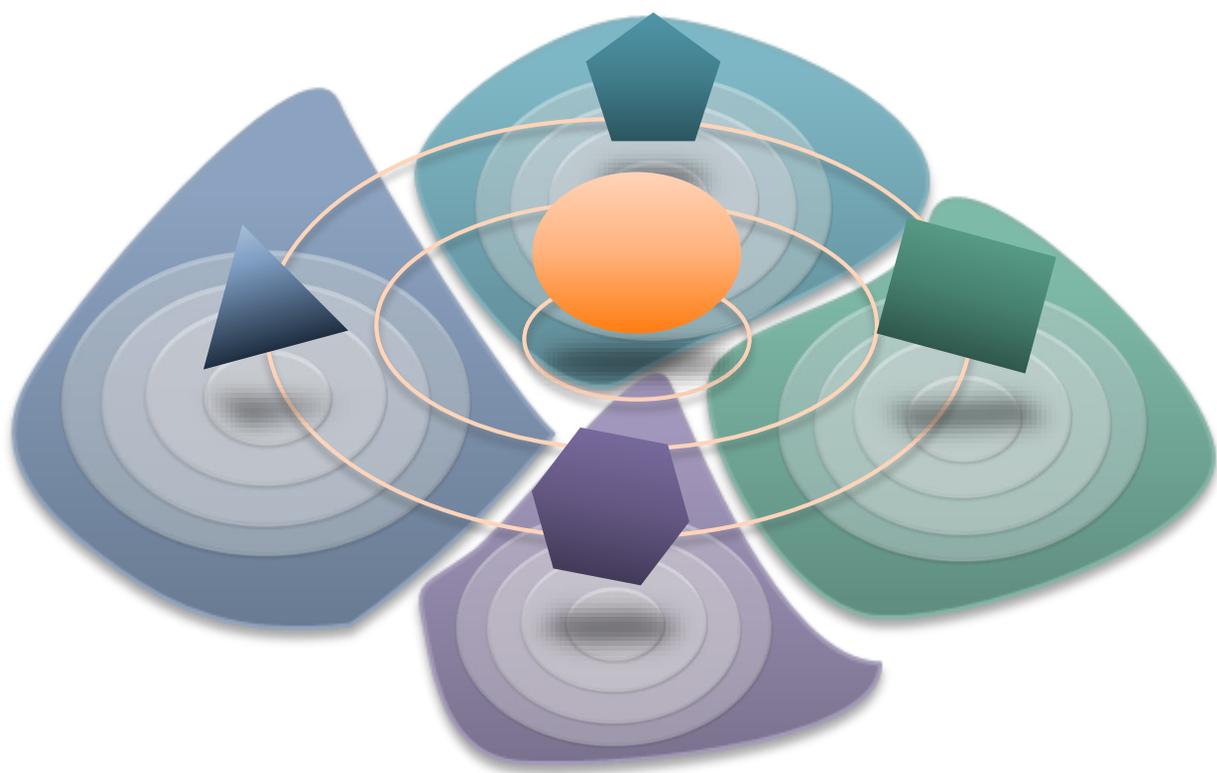


# 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画 概要版



平成29年3月

蒲郡市

# 1 計画策定の背景・目的

本市では、平成27年3月に「蒲郡市公共施設白書」（以下「白書」という。）を取りまとめ、公共施設の現状や課題を把握するとともに、維持更新にかかる将来の費用の試算を行いました。

その中で、本市の公共施設は、昭和40年代から昭和50年代にかけての高度経済成長期に整備されたものが多く、近い将来、一斉に建替えや改修の時期を迎えるため、多額の維持更新費用が必要となることから既存の施設をそのまま維持していくことが困難であることが明らかになりました。

また、多くの施設で老朽化が進んでおり、今後は、本格的な人口減少、少子高齢化時代の到来を見据え、施設を適正な規模にしながらも、社会の変化や新たなニーズに対応するために機能を見直し、市民サービスを維持・向上させていくことを念頭に置いた再整備を進める必要があります。

このような現状や見通しを踏まえ、本市は、平成28年3月に「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定し、「公共施設マネジメント」を推進するための原則を示しました。

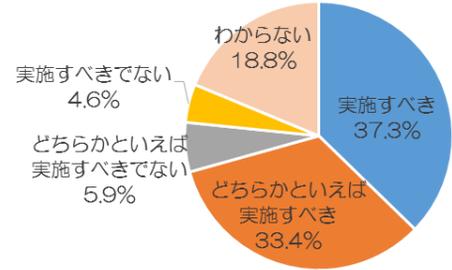
本計画は、今後の公共施設の整備を進めるための方策（目標、施設用途別の方向性、実行体制など）を示すことで、「公共施設マネジメント」の取り組みを具体化させ、施設の再編を進めることを目的として策定するものです。

# 2 市民意識と公共施設のあり方

## ● 公共施設のあり方に関するアンケート調査(平成27年度実施)

- ・満20歳以上の市民2,000名を対象にアンケート調査を行い、783名（回答率39%）の市民から回答がありました。
- ・調査では、「現在ある公共施設の統廃合によって施設の総量や整備費を減らす」、「あまり使用されていない公共施設は廃止又は縮小する」といった取り組みについて、「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」という回答が7割以上といった結果が得られるなど、公共施設マネジメントの取り組みが必要とされていることが分かりました。

図：アンケート結果(現在ある公共施設の統廃合によって施設の総量や整備費を減らす)



## ● 蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議(平成27年度実施)

- ・基本方針を検討するにあたり、市民の皆様のご意見を伺う場として「蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議」を開催しました。市民会議は市内の各種団体の代表者や公募によって選ばれた市民15名によって構成され、議論の結果は、「蒲郡市の公共施設のあり方に関する提言書」としてまとめられ、市長に提出されました。

蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議の様子



### 公共施設のあり方に関する提言における3つの観点

- ① 財政状況や社会情勢の変化を踏まえた「身の丈にあった」公共施設
- ② まちの魅力を高めるための公共施設
- ③ 公共施設マネジメントの推進方策

## ● 若者まちづくりミーティング(平成28年度実施)

- ・本計画の策定にあたり、将来を担う世代（16歳～37歳）の方々15名にお集まりいただき、「若者まちづくりミーティング」を開催しました。
- ・このミーティングでは、施設見学やワークショップなどを通じて、将来のまちづくりや公共施設の役割について意見を出し合い議論していただきました。参加者の意見は、以下の項目の「若者の意見によるまちづくりの方向性」として集約されました。

若者まちづくりミーティングの様子



### 若者の意見によるまちづくりの方向性(項目のみ)

- ・「全市利用型施設」の機能の配置と複合化
- ・地区の特色を生かす
- ・市民の健康づくり
- ・会議室機能の集約
- ・「竹島周辺エリア」の魅力向上
- ・博物館の展示機能の配置の見直し
- ・地域で助け合い、子どもを育てる
- ・保健・福祉施設の配置と機能集約
- ・将来負担の軽減



### 3 計画期間・目標

#### ●計画期間

- 平成29年度から平成58年度までの30年間の計画期間とします。

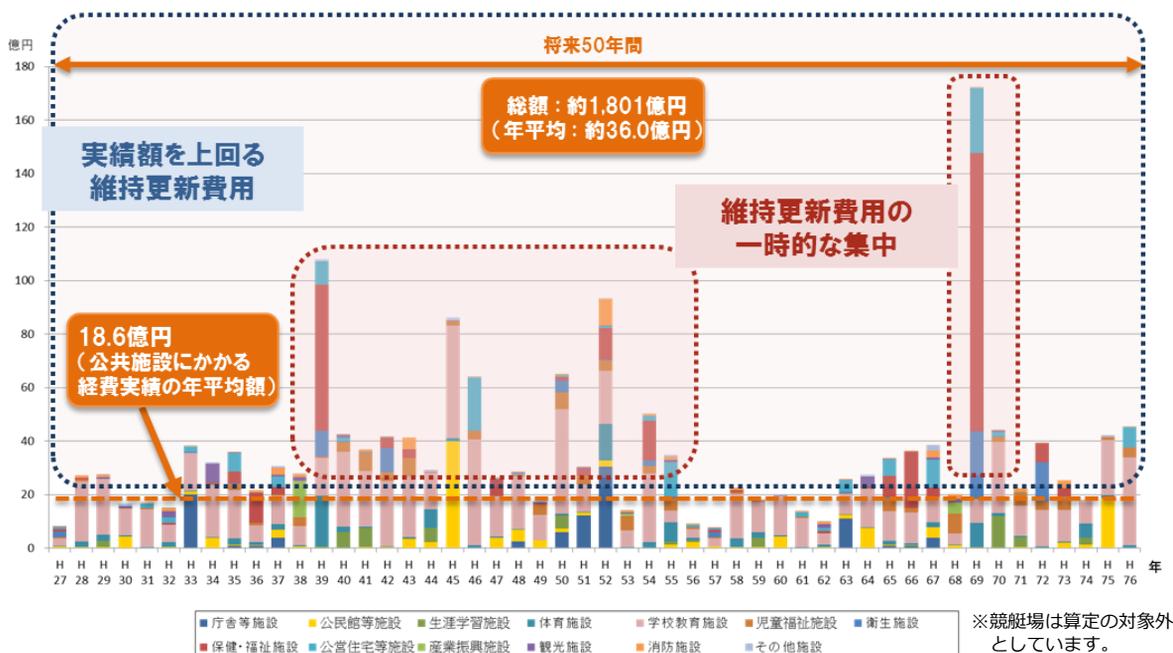
#### ●マネジメント目標

- 下図のとおり、平成27年からの50年間の維持更新費用は、年平均約36.0億円であり、実績の年平均額約18.6億円を大きく上回っています。また、本市の人口1人あたりの公共施設の延床面積は全国平均に比べて2割以上多い一方で、人口は将来50年間で約25.9%減少すると想定されています。
- 将来に大きな負担を残さないためには、「身の丈にあった」施設保有量に適正化するとともに、長寿命化により建替え時期を平準化して一時的に集中する更新費を縮減することが必要です。
- このようなことから、計画期間における目標を以下のとおり設定しました。

#### 計画期間における目標

- 建物の更新の際に概ね3割の床面積を縮減する。
- 保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、523億円の維持更新費用を縮減する。

図：将来の維持更新費用のシミュレーション



### 4 マネジメントの考え方

#### ●基本的な考え方

- 基本方針において設定された5つのキーワード（適正化、効率化、魅力、安全性、実行力）ごとにマネジメントの基本的な考え方を整理しました。

#### 適正化

将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します



- 施設の配置の見直し
- 維持費用・施設投資の抑制

- 集約化・複合化・転用の推進
- 施設評価

#### 効率化

効率的・効果的な維持管理を実施します



- 管理運営の効率化
- 市有財産の有効活用
- 民間活力の活用

- 広域連携の推進
- 受益者負担の適正化

#### 魅力

社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します



- ニーズの取り込み
- まちづくりとしての公共施設

- 市民参加

#### 安全性

計画的な保全により公共施設を安全に維持します



- 長寿命化
- 耐震性の確保

- 適切な改修

#### 実行力

公共施設の再編にむけて実行体制を構築します



- 推進体制の構築
- 計画の進捗管理

- 地域・市民が参画できる仕組みづくり
- 情報管理・共有化

## 5 施設用途別の方向性

### ●施設分類

・公共施設を、市内全域の住民や市外からの来訪者が主な利用者になる「全市利用型施設」と、施設が立地する地区の住民が主な利用者になる「地区利用型施設」に分類し、施設用途別（庁舎、市民会館、公民館、保育園といった区分別）に、計画期間における方向性を検討していきます。

### ●「全市利用型施設」についての基本的な方針

「全市利用型施設」は、施設配置について利用圏を市域全体で捉えて検討しながら、持続可能な施設規模に適正化していきます。複合化や集約化により施設の総量を縮小するとともに運営の効率化を進めることで、健全な財政を実現すると同時に、利便性の向上や新たなニーズに対応したサービスの提供により、まちの魅力を高めていきます。また、施設によっては、民間活力の活用や近隣自治体との共同利用等も検討します。

#### (1) まちの魅力を高める

市民会館や図書館、市民体育センターなどの市民の生活を支える施設や、竹島水族館などの「蒲郡市の顔」となっている施設を整備し、まちの魅力を向上させます。

#### (2) 利便性の高い施設配置

施設の魅力を高めると同時に市民の生活行動に適応した公共施設にするために、利便性の高い位置にコンパクトに公共施設を集約します。

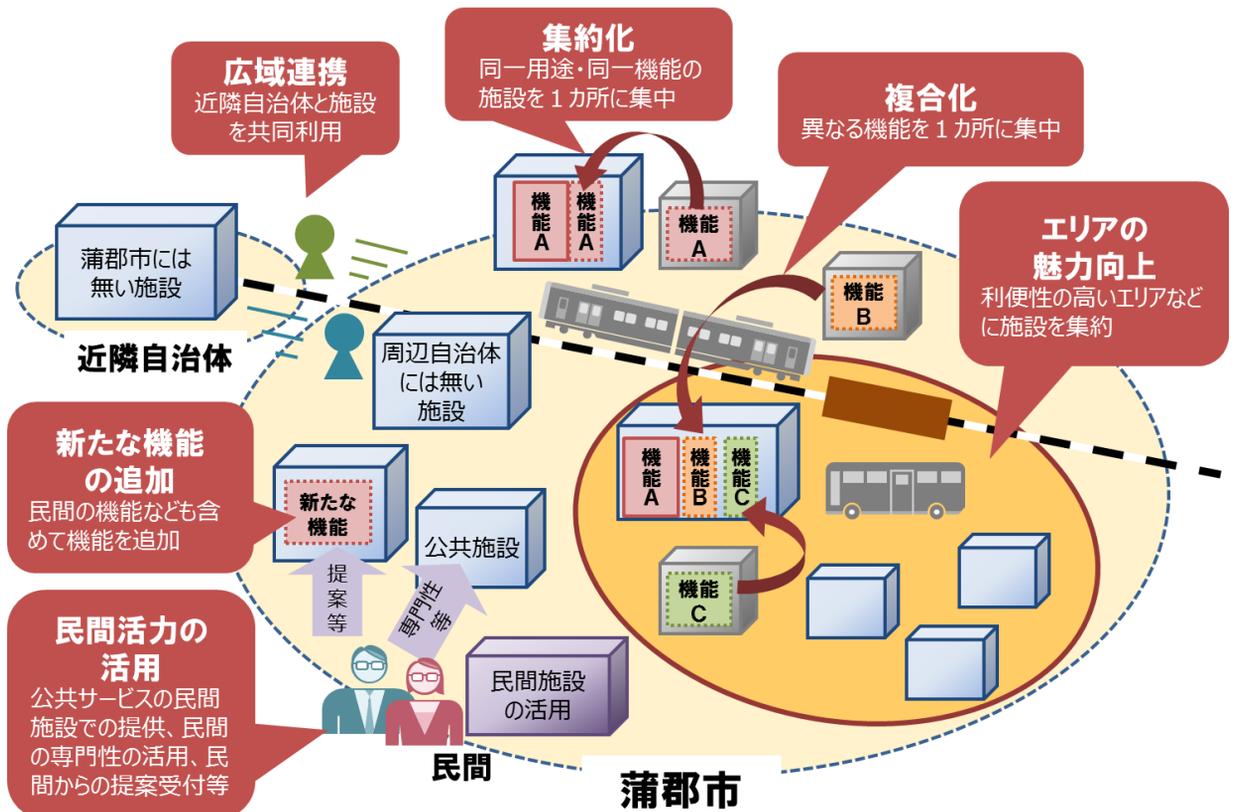
#### (3) 重複機能の集約

複数の施設で同じような行政サービスが提供されている場合に、保有量の適正化と管理運営の効率化を進めます。

#### (4) 市民との協働

個別計画の策定にあたり、ワークショップの実施などにより市民の意見を取り入れ、市民と協働して施設の整備を進めていきます。

図：全市利用型施設の複合化等のイメージ



※この図はイメージであり、具体的な施設の整備方針を示すものではありません。

## ●「全市利用型施設」についての主な取り組み

区分	主な対象施設	平成38年度までの主な取り組み
庁舎	・本庁舎	・長寿命化のための設備更新を順次進め、長期にわたって利用できるよう維持していきます。
市民会館	・市民会館	・他施設の機能を取り入れるなど複合化に向けた検討を行い、検討結果に基づき事業を実施します。（「リーディングプロジェクト」参照）
博物館等	・生命の海科学館 ・海辺の文学記念館 ・博物館	・魅力の向上に向け、機能や運営方法を見直します。 ・海辺の文学記念館は、収益確保に向け、機能や運営方法を見直します。
図書館	・図書館	・機能移転や他施設との複合化を検討し、検討結果に基づき事業を実施します。 ・敷地内にある旧看護専門学校は、早期に取り壊します。
スポーツ施設等	・公園グラウンド ・市民体育センター（競技場、武道館） ・文化広場 ・市民プール	・公園グラウンド及び市民体育センター武道館は、耐震化等を行った上で長期にわたって利用できるよう維持していきます。 ・市民体育センター競技場は、建替事業を実施します。 ・旧市民プールの建物は、早期に取り壊します。
公園	・中央公園 ・双太山公園 ・常磐苑	・公園内の建物（管理棟、休憩所など）は、長期にわたって利用できるよう維持していきます。
専門学校	・ソフィア看護専門学校	・長期にわたって利用できるよう維持していきます。
学校給食センター	・学校給食センター	・長寿命化のための設備更新を順次進めます。
福祉センター等	・勤労福祉会館 ・浜町福祉センター ・中央子育て支援センター ・生きがいセンター ・養護老人ホーム ・老人福祉センター寿楽荘 ・デイサービス（大塚、三谷） ・保健医療センター ・ユトリーナ蒲郡 ・市民病院	・民間で実施可能なサービスや機能は、民間への機能移転を検討します。 ・子育て支援に対する需要の高まりに対応するため、子育て支援機能の地域への分散配置を検討します。 ・老人福祉センター寿楽荘は、集いの場としての機能の地域移転を検討します。 ・保健医療センターは、保健・福祉機能の集約等、機能の再配置を検討します。 ・ユトリーナ蒲郡は、将来的なごみ焼却施設の広域化を踏まえながら、存続について検討します。 ・発達支援が必要な児童への支援を充実させるため、児童発達支援センター（仮称）の整備等について検討します。
公営住宅	・丸山住宅 ・大塚住宅 ・白山住宅 ・力川住宅 ・貴船住宅 ・大宮住宅 ・月田住宅 ・鹿島住宅 ・北浜住宅	・住宅マスタープランに沿ったストック数を維持していきます。 ・老朽化が著しい貴船・大宮・月田・鹿島住宅は、入居者移転を促し、早期に取り壊します。その他は、長期にわたって利用できるよう維持していきます。
観光施設	・海賓館マリンセンターハウス ・竹島水族館 ・ナビテラス ・海の家 ・西浦温泉レストハウス ・竹島レストハウス	・竹島水族館は、耐震化を行った上で、長期にわたって利用できるよう維持していきます。 ・ナビテラスは、観光客や市民にとっての利便性を向上させるために機能を見直し、必要に応じて新たな機能を追加します。 ・海の家は、老朽化が進行しているため存続について検討します。 ・竹島レストハウスは、民間の資金やノウハウを活用し観光資源としての魅力を向上させるための検討を行います。
消防署等	・消防本部 ・消防署東部出張所 ・消防署西部出張所 ・西部防災センター ・防災倉庫・水防倉庫（三谷、宮成、形原）	・消防署西部出張所は、移転及び建替えを検討し、検討結果に基づき事業を実施します。 ・老朽化が進んでいる西部防災センターは、早期に取り壊します。
その他施設	・市営共同艇庫	・市営共同艇庫は、長期にわたって利用できるよう維持していきます。

## ●「地区利用型施設」についての基本的な方針

### (1) 地区の交流拠点の形成

人口減少、少子高齢化、夫婦共働き世帯や単身世帯の増加といった社会の変化に対応していくために、地域で支え合い、助け合うことができる環境の充実が求められています。学校に様々な機能を集約することにより、子育て、高齢者のレクリエーション、文化活動、ボランティア活動、集会、スポーツ、生涯学習活動、防災活動など、多様な活動を行うことができる交流拠点となる施設を整備し、コミュニティの維持・活性化を図ります。

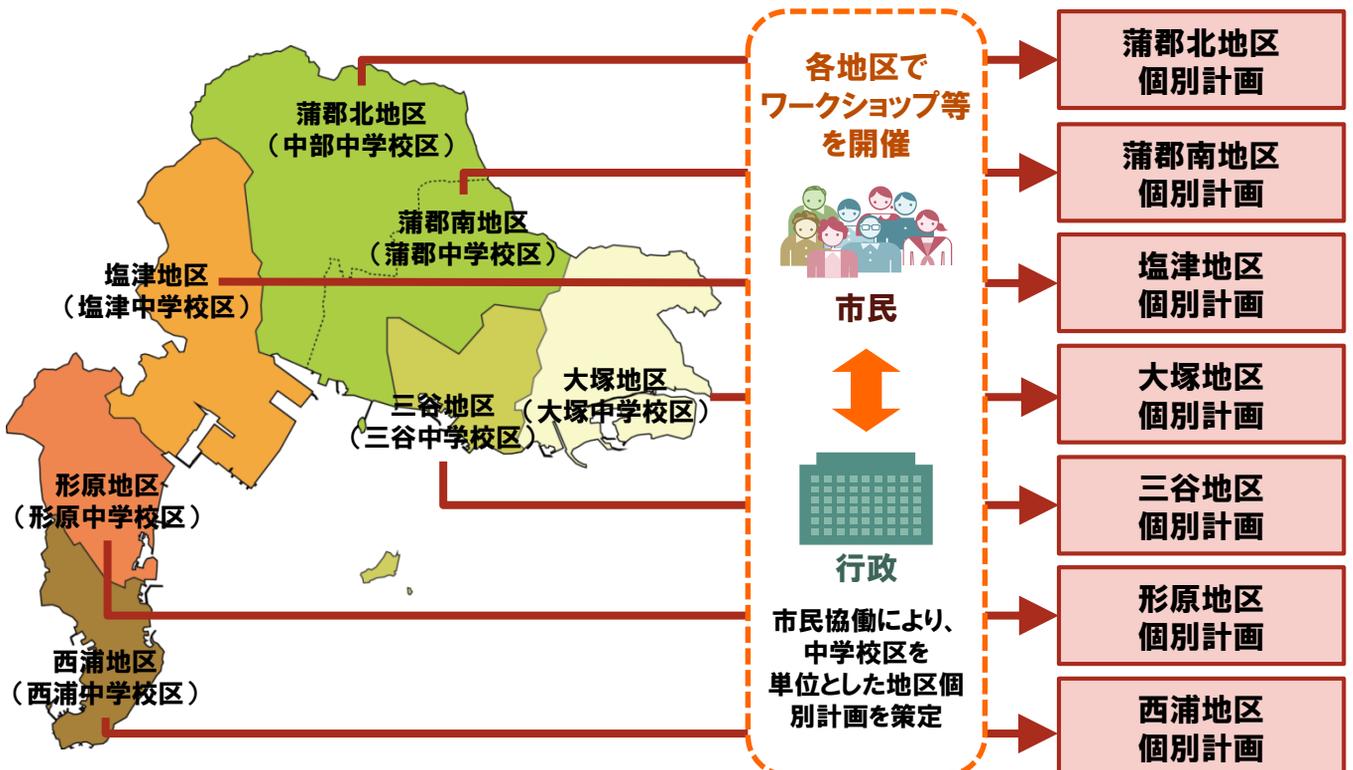
図：地域複合施設のイメージ



### (2) 地区個別計画の策定

「地区利用型施設」の再編にあたっては、地域の特性や特徴を施設に反映し、再編がまちづくりにつながるように、ワークショップの実施などにより地区の住民の皆様のご意見を伺う機会を設け、市民協働による中学校区を単位とした地区個別計画を策定し、策定した地区個別計画に基づき、施設の再編を実施していきます。なお、地区個別計画の策定は、平成29年度以降、地区ごとに順次取り組むこととします。

図：市民との協働による地区個別計画の策定イメージ



## 6 リーディングプロジェクト

- 「蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議」及び「若者まちづくりミーティング」では、交通利便性の高い蒲郡駅周辺のエリアで学習、趣味の活動、買い物などの幅広い活動が行えるようにしてほしいという声を多くいただきました。その中でも市民会館を複合施設化し、魅力ある施設へ改善することで蒲郡駅周辺エリアの魅力を高めると良いのではないかといい意見が多くありました。
- このようなご意見を踏まえ、市民会館の大・中ホール棟以外のスペースを活用し、エリア内外の他施設の機能との複合化の検討を進めます。利便性の高い立地を生かして、多くの利用者が集まり、多様な活動を便利に行える場を形成します。

### 「蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議」における意見

#### ■まちの核となるエリアの魅力創出

まちの魅力を高めるためには、個々の施設単位で考えるだけでなく、一定のエリアの単位で考え、各エリアの特徴に応じて、施設を整備する必要があります。

例えば、蒲郡駅から生命の海科学館、市民会館、博物館と続くエリアは、民間が運営する商業施設等を含めて、市民の生活を支える施設が集中するエリアとなっています。このエリアの利便性を高めるための施設の機能や配置を考える必要があります。

「蒲郡市の公共施設のあり方に関する提言書」より

### 「若者まちづくりミーティング」における意見

#### ■「全市利用型施設」の機能の配置と複合化

図書館、市民会館、生命の海科学館、博物館、市役所等にある「学ぶ」、「趣味の活動をする」、「発表・展示をする、見る」、「会議や集会をする」、「図書やメディアにふれる」、「休憩」、「行政手続き」等の機能を蒲郡駅南エリア等の交通利便性の高い位置に集約し、幅広い活動ができる複合施設を設置する。

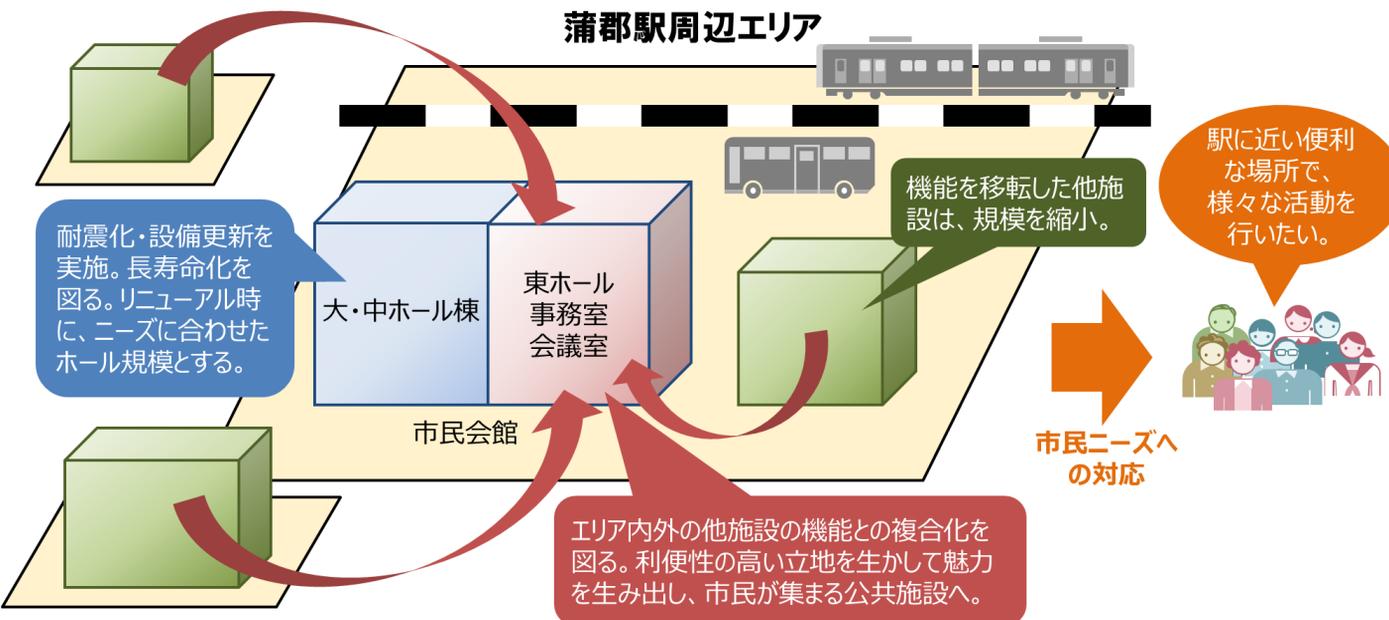
「若者の意見によるまちづくりの方向性」より

### 市民の意見を踏まえたリーディングプロジェクト

## 多様な活動が便利に行える場の形成(蒲郡駅周辺エリアへの機能集約)

図:リーディングプロジェクトのイメージ

### 蒲郡駅周辺エリア



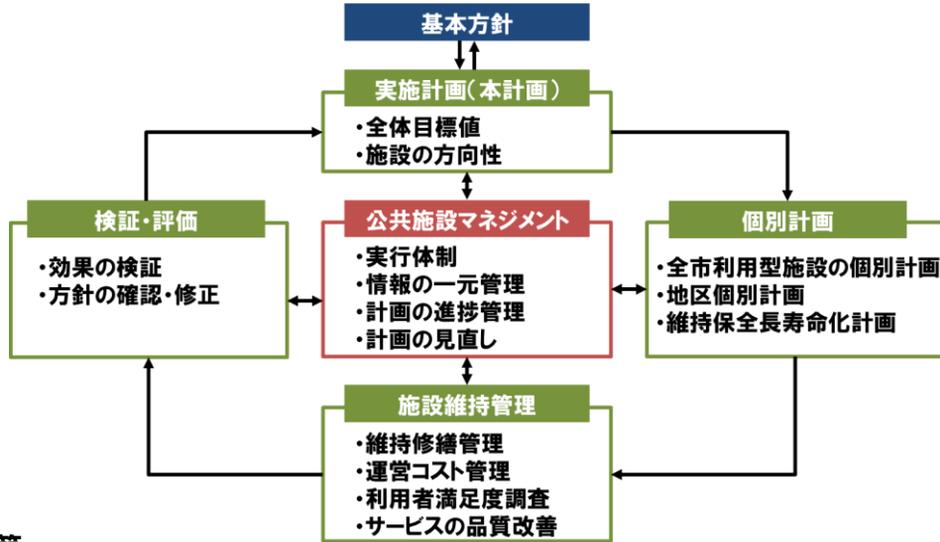
- このプロジェクトは本市にとって、複合化や多機能化により施設の魅力を高め、多くの人に喜んでいただける施設に再編する初めての試みです。このプロジェクトにより先例を築くことで、将来の公共施設マネジメントのさらなる進展につなげます。

## 7 計画の進め方

### ●公共施設マネジメントの範囲

- 公共施設マネジメントは、公共施設を経営資源として捉え、財務・品質・供給の面から統括的に管理していくことで、資源の最適な活用を図るものです。
- 公共施設マネジメントは長期にわたって取り組む課題であるため、時代とともに変化していく社会状況や市民ニーズに柔軟に対応していく必要があります。
- こうしたことから、計画の策定や施設の整備に限らず、施設の運営、建物の維持管理、コストの管理、解体処分等までの公共施設の一生涯にわたるマネジメントを範囲として捉え、一元的な情報管理の下、社会状況の変化に応じた公共施設マネジメントを進めていきます。

図：公共施設マネジメントの範囲



### ●実行体制の構築

- 施設情報の一元管理と共有化を進め、統一的な視点で判断する実行体制を構築します。

### ●計画の進捗管理・見直し

- 本計画を着実に推進するために、計画、実行、評価、改善のPDCAサイクルによる進捗管理を行います。
- 社会状況や市民ニーズの変化に対応するために5年ごとを目処に本計画の見直しを行います。

## 8 事業実施までの流れ

- 本計画を踏まえ、「全市利用型施設」は再編の案件ごとに、「地区利用型施設」は地区ごとに個別計画を策定の上事業を進めていきます。
- ニーズに対応した魅力あるサービスが提供できるよう、事業実施に向けた様々な段階において、ワークショップ、市民会議、アンケート等多様な方法で、市民の皆様のご意見を伺う場を設けます。

図：事業実施までの流れのイメージ

